

”復興まちづくり”シンポジウム

復興まちづくりに取り組む被災地と 求められる行政、企業、NPOの支援とは

主催

財団法人高度映像情報センター(AVCC)
霞が関ナレッジスクエア

日時

2012年7月3日(火)
14:45 ~ 17:30 [受付開始14:15]
17:45~19:30 交流会(メイン会場のみ)

会場

霞が関ナレッジスクエア スタジオ
サテライト会場、インターネット参加者も別途募集します



虎ノ門駅 5番、11番出口より徒歩3分
霞ヶ関駅 A13番出口より徒歩6分
★金融庁ビル奥レストラン街エスカレーター上

参加費

無料 メイン会場/サテライト会場インターネット参加

<趣旨> ~~~~~

3.11発災以降、救助、災害支援、復興支援、コミュニティ再生へと復興の状況は変化してきました。これからは、住民や自治会が主体的にコミュニティを再生し、地域再生に取り組み、行政、企業、NPO、ボランティアがこれの後押しする必要があります。

本企画では、復興庁統括官より復興庁の役割、支援の内容をお聴きします。大船渡市末崎地区公民館と陸前高田市長洞元気村からはソーシャルプロデューサーをお招きし、復興の現状、復興計画の概要をお聴きし、地域の課題をお聴きします。NPO代表者からは二地域での取り組みと経緯と今後の後押しについてお聴きします。まとめとしては、コミュニティ再生に向けた行政、企業、NPO、ボランティアの後押しについて建設的な意見交換を行います。

<進行案> ~~~~~

- 14:45~14:50 開会
- 14:50~15:00 主宰挨拶
- 15:00~15:02 イントロダクション
- 15:02~16:10 自己紹介及び3.11発災以降の復興プロセスと取組み経緯
 - (1)「ITで心と心をつなぐボランティア」: 池本 修悟
 - (2)「みんなで楽しい、そんな町にしたい」: 近藤 均
 - (3)「住民の絆で集落単位の復興」: 村上 誠二
 - (4)「復興まちづくりと復興庁のミッション」: 岡本 全勝
- 16:30~17:10 課題別意見交換
 - (1) 自然と人間の折り合いをどうするか
 - (2) まちづくりとICT活用
 - (3) 公平性と平等性の壁
 - (4) ソーシャルプロデューサーの育成
- 17:10~17:30 各会場参加者より質疑&要望・提言
- 17:45~19:30 交流会(エキスパート倶楽部)

<講師 プロフィール> ~~~~~

岡本 全勝(おかもと まさかつ)

1955年生まれ、奈良県出身。
2012年2月より復興庁統括官。1978年自治省入省、富山県総務部長、省庁改革本部参事官、総務省自治財政局交付税課課長、内閣府大臣官房審議官、内閣総理大臣秘書官、自治大学校長、東日本大震災復興対策本部事務局次長などを歴任。
主な著作:「省庁改革の現場から なぜ再編は進んだか」(2001年)「新 地方自治入門—行政の現在と未来」(2003年)
ホームページ「岡本全勝のページ」<http://homepage3.nifty.com/zenshow/>

近藤 均(こんどう ひとし)



1937年生まれ、岩手県西和賀町出身、末崎町在住。小学校教諭、校長を経て、現在は大船渡市立末崎地区公民館(ふるさとセンター)館長。県防犯協会連合会理事、民生委員、市の各種委員を兼務。末崎町復興推進委員会のリーダーとして末崎町復興祭の開催、各種ボランティアの受入れと調整、被災住民のための支援活動、行政区ごとの復興推進懇談会開催、高台移転のための取り組み、活気あるまちづくりの推進など末崎町住民1,500世帯4,500人のまとめ役として奔走中。

村上 誠二(むらかみ せいじ)



1956年生まれ、岩手県出身。岩手県大船渡市立北小学校事務職員。住まいは陸前高田市広田長洞地区の60世帯の漁村集落。津波で半数近くの家が流され広田半島が孤立、残った家々の米や芋をわけ合っって危機を乗り切った。「助け合うコミュニティこそが復興の本当の力になる」と集落専用の仮設住宅に奔走した。
・全戸集会の開催・長洞元気学校を閉校・集落専用の仮設住宅の建設
・副会長として長洞元気村自治会の立ち上げ等に取り組む。
長洞元気村ホームページ <http://www.nagahoragenki.jp/about.html>

池本 修悟(いけもと しゅうご)



1978年生まれ。大阪府出身。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究学科修了。(現職)NPO法人 NPO事業サポートセンター専務理事、新しい公共をつくる市民キャビネット事務局長、一般社団法人ユニバーサル志縁社会創造センター 専務理事、文部科学省復興教育支援員、他。2011年3月11日以降、被災地域の住民、復興支援員等のITリテラシー、スキル向上を支援し、パソコン、インターネットをツールに暮らしたのケアや被災地の情報発信に組み込む復興支援ITボランティア(http://www.npo-support.jp/it_volunteer/Home.html)を組織。5月~8月は主に避難所。9月以降は仮設住宅の集会所や談話室。最近では地域の公民館を訪問し活動。

セミナー概要

イベント名	平成24年度霞が関ナレッジスクエア(KK ²)”復興まちづくり“シンポジウム 「復興まちづくりに取り組む被災地と、求められる行政、企業、NPOの支援とは」
開催日時	2012年7月3日(火) 14:45-17:30 (受付開始14:15-) 17:45~19:30 交流会
参加方法	①霞が関ナレッジスクエア(KK2 スタジオ)参加 ②インターネットライブ配信受講 [インターネットライブ配信受講 推奨環境] CPU:1GHz以上(2GHz以上推奨) 搭載メモリ:512MB以上(1GB以上推奨) ウェブブラウザ: Internet Explorer、Firefox、Safari、Google Chrome ソフトウェア: Adobe Flash Player 9以降 インターネット接続:ブロードバンド回線(光回線推奨) ※お申込みいただいた方には、視聴方法をご連絡します。
参加費	参加無料
定員	会場受講:60名/インターネットライブ受講:500名まで
開催場所	霞が関ナレッジスクエア(KK2 スタジオ) 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館3階 [虎ノ門駅] 11番出口より徒歩3分 [国会議事堂前駅] 4番出口より徒歩6分 [霞ヶ関駅] A13番出口より徒歩6分
申込方法	①[Web サイト受付] KK2Webサイトにて、お申込みを受け付けています。KK2Webサイト http://www.kk2.ne.jp/ ※Webサイトからのお申込みには無料Web会員への登録が必要になります。 ②[FAX・電話受付] FAX・電話でもお申込みいただけます。電話:03-3288-1921 FAX:03-5157-9225
問合せ先	財団法人高度映像情報センター(AVCC)霞が関ナレッジスクエア 事務局担当 丸山・河合・畑山 電話:03-3288-1921 FAX:03-5157-9225

FAX申し込みフォーム

下記のFAX参加申込書、もしくは電話でお申込みいただけます。
FAXでお申込みいただいた方には、事務局から受付完了のFAXを差し上げます。

氏名	
団体(企業)名・部署名	※団体(企業)等に所属されない方は、その他と入力してください。
メンバーズNo	※メンバーズカードをお持ちの方のみご記入ください。
参加方法	<input type="checkbox"/> KK2スタジオ参加 <input type="checkbox"/> インターネットライブ配信受講
交流会	<input type="checkbox"/> 参加する ※KK2スタジオ参加の方のみ。 <input type="checkbox"/> 参加しない
電話番号	
FAX番号	
備考	

FAX番号 03-5157-9225